



アメリカ

偽造ボツリヌス毒素注射で有害事象が発生

CDC(アメリカ疾病管理センター)ウェブサイト <https://emergency.cdc.gov/han/2024/han00507.asp>FDA(アメリカ食品医薬品局)ウェブサイト <https://www.fda.gov/drugs/drug-safety-and-availability/counterfeit-version-botox-found-multiple-states>

CDCはこのほど、2023年11月～2024年3月に国内で報告された偽造ボツリヌス毒素の注射によるとみられる22人の有害事象を発表した。うち11人が入院し、死亡者はいない。ボツリヌス菌は、一定の環境下で芽胞を形成・成長することで人に全身の神経麻痺を生じさせるボツリヌス毒素を産生する。

今回の報告例では全員が医療施設以外の自宅やスパなどで、無免許または施術経験が未熟な者から偽造ボツリヌス毒素の注射を受けており、さらに、ほぼ全員が美容目的であったという。症状は、注射部位周辺の変調として、目がかすむ、二重に見える、眼瞼下垂、嚥下困難、口喝、ろれつが回らない、さらに筋力低下による呼吸困難や倦怠・脱力感もあった。

毒素注射によるボツリヌス症の多くは、毒素が体内に注入されてから数日後以降に発症する。CDC

は、医療従事者に対し、注射部位付近の局所的麻痺を訴える患者についてはボツリヌス毒素注射による副反応かボツリヌス症かを診断し、中毒が疑われる場合は州保健当局やCDCボツリヌス症対策支援サービスに連絡するとともに、検査結果を待たず即時に抗毒素薬投与などの治療を始めることを推奨している。また、一般向けには、必ず認定された場所で免許を持つ施術者による注射を受けること、注射後に呼吸困難や嚥下困難などの症状が現れた場合は迷わず救急診療を受けるよう勧めている。

今回の偽造品は回収されておらず、FDAは偽造品の外箱などの特徴として、●正規品の用量が50、100、200単位のところ、偽造品には150単位と記載●英語以外の言語表記がある、などを画像とともに紹介し、医療従事者と消費者に注意を促している。



メキシコ

子どもや青少年の健康に有害なデジタル広告に規制を

INSP(メキシコ国立公衆衛生研究所)ウェブサイト <https://www.insp.mx/avisos/conferencia-la-publicidad-digital>

食の健康アライアンス(メキシコ)ウェブサイト

<https://alianzasalud.org.mx/2024/04/por-violaciones-a-los-derechos-y-privacidad-de-ninos-ninas-y-jovenes-expertos-llaman-a-regular-la-publicidad-digital/>

メキシコは、肥満対策として世界でいち早く砂糖入り飲料に課税する砂糖税(2014年)などを実施してきた。しかし、2024年4月にメキシコシティで開催されたシンポジウム「デジタル広告:子どもと青少年の健康、プライバシー、自律性の侵害」において、メキシコでは5歳未満の約130万人が、ラテンアメリカ地域全体では約610万人が慢性的栄養失調である一方、19歳までの約1430万人、同地域全体では4800万人が過体重または肥満と報告された。子どもや青少年が糖尿病や高血圧、心臓病などの非感染性慢性疾患を発症するリスクが高く、このままでは親世代の平均寿命を4年も下回ると予測されている。

また、5歳以下の子どもは、1日当たり消費カロリーの39%を、ジャンクフードやスナック菓子、砂糖入り飲料などの超加工食品*から摂取していること

が判明。大手企業のマーケティング戦略がこれらの高カロリー・高脂質で不健康な超加工食品の消費に多大な影響を及ぼしているという。現代のマーケティング戦略は綿密なデータ分析に基づいており、SNSやオンラインゲームなどを通して子どもや青少年の生活に深く入り込んでいる。

シンポジウムでは子どもや青少年の健康への権利やプライバシーを保護するため、政府に対し●健康的で持続可能な食事の指針制定 ●砂糖税や食品包装の前面警告ラベルなどの施策の促進 ●学校給食など公共プログラムによる健康的な食品の調達や配布 ●安全な無料の飲料水の確保 ●子どもや青少年の学びや遊びなどの生活環境において、超加工食品を購入したり、広告やマーケティング戦略にさらされることを制限する対策などを勧告している。

* 添加物を付与して工業的な製造過程を経て作られた、糖分・塩分・脂肪を多く含む加工済みの食品(食品を加工度合いによって4つに分けるNOVA分類のグループ4)